

(指定様式)

団体調書【はじめての一步部門】

(1) 団体概要

団体名	一般社団法人 次世代ロボットエンジニア支援機構	HP 等 URL	https://scramble-robot.org
団体種別と 設立年月	<input type="checkbox"/> NPO 法人 (年 月) <input checked="" type="checkbox"/> その他法人 (2020 年 5 月) <input type="checkbox"/> 任意団体 (年 月)	活動分野	6, 13, 15, 17
代表者名	役職名: 代表理事 氏 名: 川節 拓実	会員数	70 名
団体連絡先 (申請担当者)			

(2) 会員名簿

氏名	役職名	住所	生年月日

(3) 団体の活動目的

活動の目的・目標	<p>エンジニアの裾野が広がり優秀なエンジニアが多数輩出されるとともに、あらゆる人々がエンジニアの素養を持ち科学技術の発展へ共に貢献できる社会を創り、社会一体となって科学技術でより良い社会を共創する未来を作る。</p> <p>エンジニアを目指す過程の裾野を広げるべく、身近な場所かつ気軽に参加できる形で幼少期からエンジニアリングに触れる場を提供する。</p>
活動の内容・活動実績	<p>地域の小・中学生が習い事のような感覚で、地域のエンジニアからロボット作りを教授できる地域ロボット部活動“ジュニアロボットチーム”の実施（昨年度、他地域で実施した実績あり）。</p> <p><他地域での実績></p> <ul style="list-style-type: none">・小学 5 年～中学 2 年生の 11 人が参加・8 ヶ月間、月 2 回程度の頻度で 1 日 7 時間程度集まり、ロボットを作る機械、回路、制御の基礎講座やロボット製作を実施・本機構が過去数年間にわたって実施してきたロボット教室の教材を活用することで、ロボット作り初心者の子どもたちに対しても、ロボット製作に関する基礎知識を短期間で習得させることができた。・ロボット製作時には 6 人程度のチームに分かれ、800mm 立方程度のロボットを製作。チームで協力してロボット製作を行うことにより、工学的知識のみならず、チー

	<p>ムワークを育くむことができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最後にはロボット競技会に出場し、習得した技術とチームワークを発揮する場を設けた。 <p>本年度からは、国内でも有数の技術者の街でもある愛知県豊田市にも実施地域を広げる。</p>
--	--

(4) 補助金の使用用途と活用する活動・事業内容など

<p>消耗品費 330,000 円 ロボット製作時のパーツ代。 使用料: 92,800 円 本ジュニアロボットチーム事業にて利用する会場使用料(豊田市朝日丘交流館 会議室もしくは工芸室想定)、成果物などを保管するレンタル倉庫料。 旅費・交通費: 60,000 円 印刷製本費: 18,000 円 本事業に関する参加者募集時のチラシならびにポスター費用。 通信運搬費: 15,000 大会出場時のロボット輸送費用。 保険料: 5,600 円 スポーツ安全保険加入料。</p>
--

(5) 審査項目毎にアピールしたいこと

<p>【課題】 ・社会課題に対して、団体の活動目的が明確となっているか。(趣味や娯楽、特定の個人や団体の利益が目的となっていないか)</p>	<p>科学技術立国たる日本を支えるには、次世代のエンジニアの育成が重要です。ロボット製作は技術の基礎を広く学ぶために良い手段であり、最近ではロボット教室も一般的になってきました。しかし、既存の教室で学べる範囲は初学者的内容にとどまり、また基本的に個人プレーのためエンジニアとして重要なチームワークを学ぶことは困難です。より高度な技術にチームで挑める環境を、身近な場所かつ気軽に参加できる形で幼少期から提供することは極めて重要です。</p> <p>そのため、本団体は活動期間を通して、子どもたちにチームで1つの大型ロボットを製作し、対外大会へ出場する経験を通してエンジニアリング経験を積む場を提供し、将来的にはサッカーチームや野球チームのように身近にロボットチームがあり、誰もが簡単に科学技術を学べる社会を目指します。</p>
<p>【資金】 ・団体の自主的な財源を確保しようとしているか(会費・参加費等)。</p>	<p>本団体は、地域社会が支援する形で地域の子どもの育てる社会を作るため、次世代の技術者育成活動を実施しており、この実績が評価され多数のスポンサー様、サポーター様から寄付金を頂戴しております。</p> <p>本事業の実施にあたり参加者から受講料を受け取りますが、経済的格差無しに高度な教育を施すため、受講料は一般的な習い事レベル(月額数千円)程度とします。上記寄附金および本補助金を活用することで、受講料では賄えない経費を捻出し、参加者の負担を軽減しながらも着実に事業を実施します。</p>
<p>【継続性】 ・団体の組織的な活動ができる体制が整っているか。 ・適正な事業計画が作成されているか。</p>	<p>本団体には若手からベテランの技術者が全国から100名近く在籍しており、豊田市およびその近辺在住の会員も多数在籍しています。</p> <p>豊田市近辺在住の会員で会場準備や小中学生の指導を行い、本事業運営の意思決定、経理などの事務手続きについては、オンライン環境を活用し、会員のバックアップを受けられる体制を整えています。</p> <p>本事業の事業計画に関しては、昨年度まで他地域で先行実施を行った事例を基に同様の計画を立案し、活動を実施、展開する予定です。</p>